

ファンドの運用状況

ー巨大な世界市場を舞台に成長を続ける日本のコンテンツー

ジャパン・クリエイティブコンテンツ関連株ファンド
愛称:エンタメ∞ニッポン 追加型投信/国内/株式

- 平素は「ジャパン・クリエイティブコンテンツ関連株ファンド(以下、当ファンド)」に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。本レポートでは、当ファンドの運用状況についてご紹介します。

ファンドの運用状況について

投資環境

10月の国内株式市場は大幅に上昇しました。高市政権の発足や米中通商交渉の進展などを受け、マーケットセンチメントが改善したことが株式市場の追い風となりました。物色動向としては、防衛、エネルギー、造船などの政策関連株や、AI・半導体関連のテクノロジー関連株が相場の上昇を主導しました。

こうしたなか、主要株価指数の10月の騰落率は、日経平均株価が+16.7%、東証株価指数(TOPIX)が+6.2%となり、特に値嵩のテクノロジー関連株の上昇により日経平均株価の上昇が際立つ展開となりました。一方、日本のクリエイティブコンテンツ関連株で構成される指数は方向感が乏しく、同期間の騰落率は+1.5%に留まり、日経平均株価やTOPIXに比べて大きく劣後しました。11月以降は、短期的な過熱感などから相場はやや調整し、日経平均株価、TOPIXともに上げ幅を縮小する展開となりましたが、クリエイティブコンテンツ関連株の指数は冴えない動きが続きました。

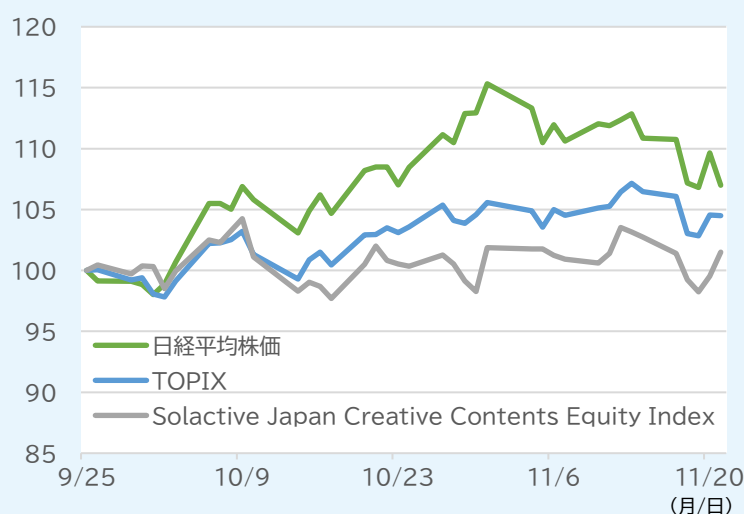
運用状況

当ファンドの基準価額は、足元10,000円を下回る水準での推移となっています。当ファンドが投資対象とするコンテンツ関連株は、マーケットで物色の中心である高市政権の政策や米国の通商政策との関連性が乏しいことから、方向性に欠ける推移となり、当ファンドの10月のパフォーマンスは、主要株価指数に対して劣後し2.0%の下落となりました。

足元、政策関連株や通商関連株、AI・半導体関連株などがマーケットの物色の中心となっていますが、こうした物色が一巡すれば、企業の成長力や収益の持続性などから、コンテンツ関連株が再評価される局面になると考えています。今後の運用につきましては、7-9月期決算の内容を踏まえ、株価への織り込みを勘案しながら買い増し等を検討するほか、来期以降の成長鈍化が懸念される銘柄については売却等を行い、ポートフォリオの調整を続けてまいります。

図表1 主要株価指数の推移

(期間:2025/9/25~2025/11/21、日次)



※当ファンド設定日の前営業日(2025年9月25日)を100として指数化(配当込み)

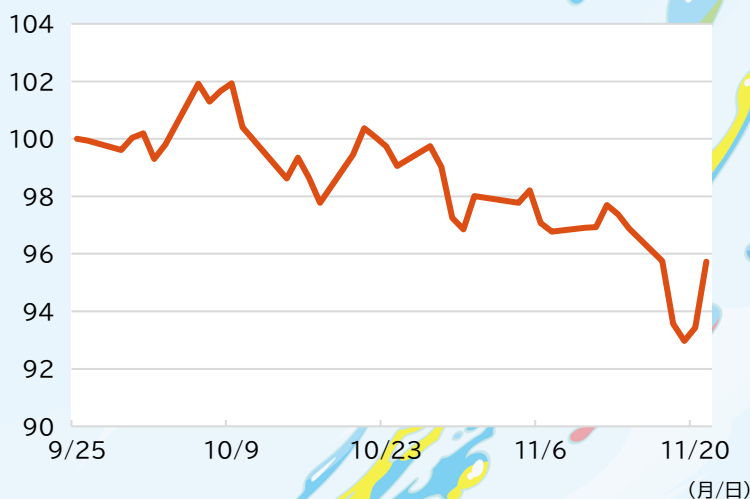
*Solactive Japan Creative Contents Equity Index:

当指数は、ゲーム、アニメ、漫画、eスポーツ、動画配信プラットフォームおよび関連技術など、クリエイティブコンテンツの製作・流通・商業化に関与する日本企業で構成されています。

(出所)Bloombergのデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

図表2 基準価額の推移

(期間:2025/9/25~2025/11/21、日次)



※基準価額は信託報酬控除後。

※当ファンド設定日の前営業日(2025年9月25日)を100として指数化



注目テーマ

コンテンツ関連株の上期決算速報！

コンテンツ関連株の決算総評

10月下旬から発表が本格化している上期決算ですが、コンテンツ関連株については業績の明暗が分かれている印象があります。業績が振るわなかった企業は、ヒット作品の有無や発売・公開時期のずれといった個別的要因によるものが中心で、需要や市場環境が悪化した企業は限定的でした。一方で業績が好調な企業は、海外需要を取り込みながら、コンテンツの多角的な収益化を進めています。配信を通じた認知拡大から、グッズ、イベント、ゲーム化へと収益源が広がる“循環”が回り始めており、良好な決算を示した企業の多くは、今後も高い成長が継続する可能性が高いとみています。

運用者が見る 上期決算のPick Up銘柄 ①

7974 任天堂

決算が良好だった銘柄の中でも、**特に印象が良かったのが任天堂**です。7-9月期の営業利益は前年同期比+31%と市場コンセンサスを上回りましたが、それ以上に評価したいのは、重要な経営指標の状況です。具体的には、①Nintendo Switch2の販売計画の上方修正、②旧Nintendo Switch向けソフトの販売好調の2点です。

① Switch2の販売計画の上方修正

最大の注目点であった2026年3月期のSwitch2の販売計画は**1,500万台から1,900万台へ上方修正**されました。メーカー希望小売価格は49,980円(税込)と前作より約50%高い水準ですが、それでも計画が引き上げられたということは、既存ユーザーの乗り換え需要の強さと、流通側の手応えを反映したものと考えています。

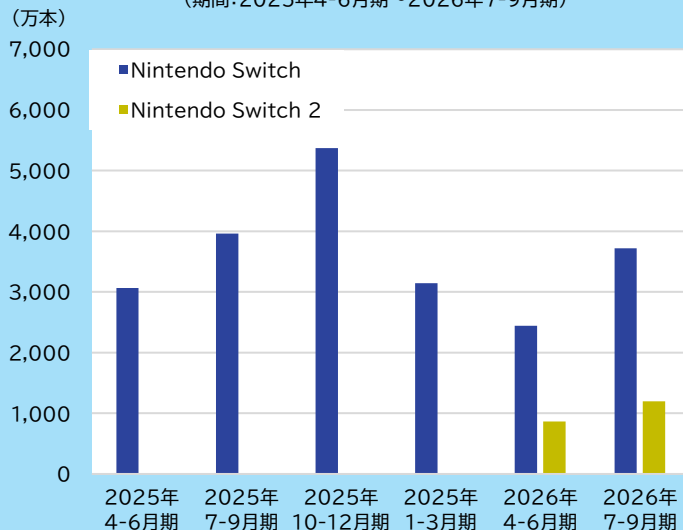
②旧Switch向けソフト販売好調

意外感が強かったのは、Nintendo Switch2発売後も、旧Switch向けソフトの販売が想定以上に堅調だった点です。プラットフォーム移行期に販売が落ち込むケースが多い中、任天堂は新作タイトルを両ハード向けに展開するなどの工夫により、既存ユーザーを維持しながらハード全体で売上を最大化する計画を進めています。IPの継続的な収益化に加え、移行期の収益基盤を途切れさせない戦略が改めて確認されました。

図表3 Nintendo Switchシリーズの販売台数推移
(期間:2018年~2026年、予想含む)



図表4 Nintendo Switchシリーズのソフトウェア販売数
(期間:2025年4-6月期~2026年7-9月期)



* 銘柄における作品等は、参考情報として記載したものであり、当ファンドに関与していません。

* 上記は、個別銘柄の推奨を目的として示したのではなく、当該銘柄の株価の上昇および投資先ファンドへの組入れを保証するものではありません。

(出所)「任天堂」IR資料のデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成



注目テーマ

コンテンツ関連株の上期決算速報！

運用者が見る 上期決算のPick Up銘柄 ②

9602 東宝

東宝の6-8月期は営業利益が前年同期比+33%と好調でした。その背景には、「鬼滅の刃」や「国宝」など大型作品の記録的ヒットがあり、東宝グループの国内配給作品の興行収入が年間記録を史上最速で更新するなど、映画事業が大きく寄与しました。株価については夏場以降、上値が重く、「鬼滅の刃」のヒットによる好材料の出尽くし感が意識されているように見えますが、以下の2点のポイントから今後も高い成長が続く可能性が高いと考えています。

①自社製作作品の貢献

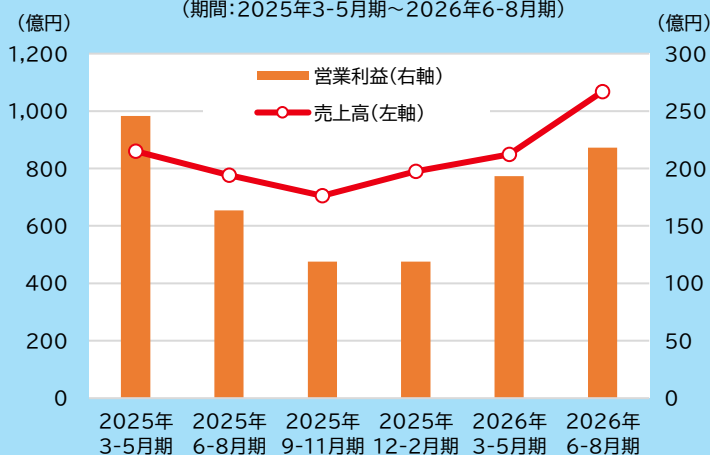
「鬼滅の刃」の大ヒットは6-8月期決算の売上増に大きく貢献しましたが、一方で注目すべき点は営業利益が2025/2Qの3-5月期よりも高かったという点です。2025/2Qに大きく利益を伸ばしたのは「ゴジラ-1.0」や「変な家」などの、配給と製作出資の両方を行う作品が大ヒットしたためです。確かに「鬼滅の刃」は興行収入という意味での話題性は大きいですが、同社にとって、より重要なのは**自社で製作出資を行う作品がヒットするか**です。既に「ゴジラ」の新作映画の製作も決定しており、今後は自社製作作品による貢献が期待されます。

②TOHO animationの台頭

東宝は近年、映画中心のビジネスからコンテンツ製作への比重を高めており、その中でも注目すべきがアニメレーベルであるTOHO animationです。2012年に発足した比較的新しいレーベルながら、前期末時点で累計製作作品数はすでに115を超え、シリーズ化された人気作を多く抱えている点が特徴です。既存タイトルからのグッズ販売や配信収入に加え、新規製作の本数は2032年までに30本へ拡大する方針が示されており、保有コンテンツの拡大により今後は東宝全体の業績を大きく牽引していく存在になると考えています。

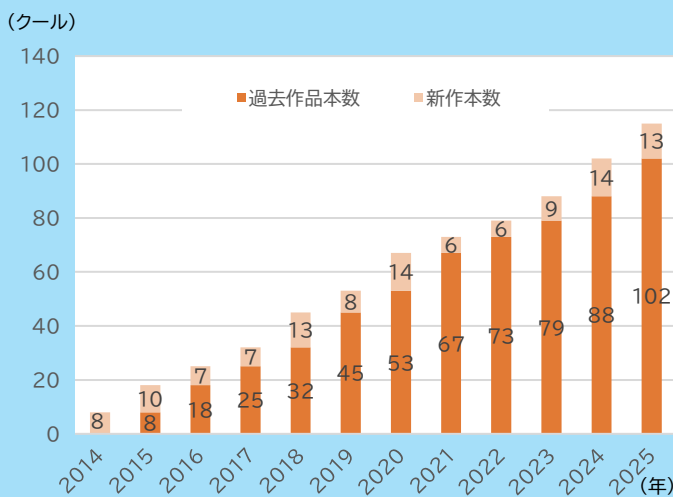
図表5 東宝の四半期業績

(期間:2025年3-5月期~2026年6-8月期)



図表6 TOHO animationの累計製作本数

(期間:2014年6-8月期~2025年6-8月期)



図表7 TOHO animationの人気タイトル

(2025年10月末時点)

タイトル	放送期間
薬屋のひとりごと	2023年~2025年
僕のヒーローアカデミア	2016年~2025年
葬送のフリーレン	2023年、2024年
ハイキュー	2014年~2016年、2020年
SPY×FAMILY	2022年~2023年、2025年

* 銘柄における作品等は、参考情報として記載したものであり、当ファンドに関与しておりません。

* 上記は、個別銘柄の推奨を目的として示したのではなく、当該銘柄の株価の上昇および投資先ファンドへの組入れを保証するものではありません。

(出所)各種報道等、「東宝」IR資料のデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

販売会社一覧

2025年11月27日現在

受益権の募集の取扱い、投資信託説明書（交付目論見書）、投資信託説明書（請求目論見書）及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。
なお、販売会社には取次販売会社が含まれる場合があります。

商 号	登 録 番 号	加 入 協 会			
		日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品取引業協会
（金融商品取引業者）					
株式会社SBI証券	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
岡三証券株式会社	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
岡三にいがた証券株式会社	関東財務局長(金商)第169号	○			
株式会社証券ジャパン	関東財務局長(金商)第170号	○	○		
三津井証券株式会社	北陸財務局長(金商)第14号	○			

■本資料で使用している指数について

当ファンドはSolactive AGによって資金提供、販売促進、販売またはその他の方法でサポートされるものではありません。また、Solactive AGは、指数、指数商標、いかなる時点の指数価格、その他の使用によって生じた結果について、明示的、黙示的を問わず保証するものではありません。指数はSolactive AGによって計算、公開されます。Solactive AGは指数の正確な算出に最善を尽くします。委託者に対する義務にかかわらず、Solactive AGは、当ファンドの投資家または金融仲介機関等を含む第三者に対して、指数の誤りを指摘する義務を負いません。Solactive AGによる指数の公表、または当ファンドに関連した利用のための指数もしくは指数商標の使用許諾は、当ファンドへの投資をSolactive AGが推奨するものではなく、当ファンドへのいかなる投資に関して、Solactive AGが何らかの保証や意見を示すものではありません。

委託会社
お問い合わせ先

電話番号
03-3516-1300（営業日の9:00～17:00）

ホームページ
<https://www.sbiokasan-am.co.jp>

ジャパン・クリエイティブコンテンツ関連株ファンドに関する留意事項

■ 投資リスク

基準価額の変動要因

投資者の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者の皆様に帰属します。ファンドは、国内の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。

ファンドの主な基準価額の変動要因としては、「株価変動リスク」、「信用リスク」、「特定の業種・テーマへの集中投資に係るリスク」、「流動性リスク」があります。

※「基準価額の変動要因」は、上記のリスクに限定されるものではありません。

留意事項

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要がある場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込みの受付が中止となる可能性、換金代金の支払が遅延する可能性があります。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりの方が小さかった場合も同様です。
- ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。ファンドが投資対象とするマザーファンドを他のベビーファンドが投資対象としている場合に、当該他のベビーファンドにおいて追加設定および一部解約等がなされた場合には、その結果として、マザーファンドにおいても売買等が生じ、ファンドの基準価額に影響を受けることがあります。
- 取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込みの受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込みの受付を取消すことがあります。

■ お客様にご負担いただく費用

- 購入時手数料：**購入金額(購入価額×購入口数)×上限3.3%(税抜3.0%)**
- 換金手数料：**ありません。**
- 信託財産留保額：**ありません。**
- 運用管理費用(信託報酬)：**純資産総額×年率1.628%(税抜1.48%)**
- その他費用・手数料：**監査費用[純資産総額×年率0.011%(税抜0.01%)]**

有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等を投資信託財産でご負担いただきます。なお、マザーファンドの当該費用につきましては、間接的にご負担いただきます。

(監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。)

○お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。

○詳しくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」の「手続・手数料等」をご参照ください。



商 号 等: SBI岡三アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第370号
加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、当ファンドに関する情報提供を目的としてSBI岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている運用実績は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成日時時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その情報の正確性・完全性を保証するものではありません。■購入の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。